

新規自営就農者の所得確保要因の分析

工藤三之・黒沢雅人・高田宏樹*

(秋田県農業試験場・*秋田県農林水産部)

Analysis of income-securing factors for newly self-employed farmers

Mitsuyuki KUDO, Masato KUROSAWA and Hiroki TAKADA *

(Akita Prefectural Agricultural Experiment Station・* Akita Prefectural Department of Agriculture, Forestry and Fisheries)

1 はじめに

秋田県の調査によると、2023年度の新規就農者数は275名であり、その内訳は、雇用就農が191名、自営就農が84名となっている。近年は雇用就農が増加傾向であるのに対し、自営就農は2016年度をピークに減少を続けている。

人口減少下のなかで、新規就農者の確保・育成は重要な課題であり、中でも減少傾向にある自営就農者の確保が求められている。

一方、就農希望者が知りたい自営就農者が就農から経営が安定するまでの取り組みや経営の変化を解析した事例は少ない。

そこで、新規自営就農者の経営状況の把握と所得確保の条件等を明らかにすることを本研究の目的とした。

2 試験方法

2017年度から2021年度の農業次世代人材投資事業に採択された県内3市の自営就農者45名を対象とし、本事業における就農状況報告書を基に所得や収入、経費の状況を分析した(表1)。また、個別の取り組み状況については、市担当者からのヒアリングで補完した。

次に、上記45名の中からその地域で代表的な作目を導入し、親と異なる経営を行う6名を選定し、就農前から現在までの取り組みについてヒアリング調査を実施した(表2)。

なお、分析を行うにあたり、所得は農業次世代人材投資資金を除いて算出し、赤字就農者と黒字就農者に分けた。さらに、黒字就農者については、秋田県で定める所得目標により450万円(認定農業者)、225万円(認定就農者)、225万円未満の3つに区分した。

3 試験結果及び考察

(1) 所得確保の状況

農業次世代人材投資資金受給者45名の属性を見ると、就農時の年齢は20代以下が24%、30代が59%、40代が17%であった。就農ルートは、農家出身者で他産業から農業へUターン就農した者が78%、農家出身者で学校を卒業し直ちに就農した者が13%、新規参入が9%であった。取り組む作目により6つの営農類型に分類され、その内訳は、野菜専作が過半を占めた(表1)。

就農1年目と4年目の所得の関係は、1年目に赤字の新規自営就農者は22名おり、その過半は4年目も赤字であり、所得目標を確保できているのは1名であった。1年目の黒字就農者のうち所得225万円未満は19名おり、その過半は4年後も225万円未満、赤字が4割を占めた。1年目から所得225万円以上を確保した新規自営就農者は4名おり、いずれも4年目には認定農業者並みの所得450万円を確保していた(表3)。

就農4年目における経営状況を分析したところ、収入額と所得の関係は、収入額が増えるにつれて赤字や所得225万円未満の割合が減少し、所得225万円達成や450万円達成が増加する傾向が見られた(表4)。黒字就農者と赤字就農者の損益の比較では、黒字就農者は赤字就農者に比べ、収入額、経費ともに金額が大きくなった。しかし、t検定の結果では、収入額には有意な差が認められたが、経費には認められなかった(表5)。経営課題は、「単収・単価の低迷」が最も多く、次いで「親の経営にシフト」「規模縮小」「マインドの低下」の順となった。また、収入額が少ないほど経営課題が多くなる傾向が見られた(表6)。

以上の事から、就農1年目の所得が4年目の所得にも影響を及ぼすことから、1年目からの所得確保が重要であること、黒字就農者と赤字就農者の経費は同水準であることから、単収・単価を向上させ、収入を確保する取り組みが早期の営農定着に必要なものと推察された。

(2) 取り組む内容と所得確保への影響

就農前から現在までの取り組みが4年目の所得にどのように影響を及ぼしているか分析するため、秋田県農林水産部発行の就農支援マニュアル等^{1) 2)}を参考に、就農の準備段階、実行段階、評価段階で取り組むべき事項をまとめたチェックリストを作成した(データ省略)。このチェックリストを基に、自営就農者のこれまでの取り組みが就農のどの段階にあたるものか、また、その取り組みが経営の成果につながったものをプラス要因、失敗や課題につながったものをマイナス要因として区分し、集計した。

その結果、6名全体では経営への成果につながる内容が多くなった。黒字就農者と赤字就農者を比較すると、プラス要因は黒字就農者、マイナス要因は赤字就農者が多かった。段階別に見ると、計画段階では黒字就農者はプラス要因が多く、赤字就農者はマイナス要因が多かった。実行段階では黒字就農者がプラス要因、マイナス要因ともに多かった。評価段階の取り組みは計画、実行段階と比較して少なく差も小さいことから、

黒字就農者と赤字就農者の関係は判然としなかった(表7)。

以上の事から、計画段階の取り組みを十分に実施することと、営農の成果や課題をより多く認識できることが所得確保につながると推察された。

4 まとめ

今回の分析から、就農準備段階から意欲的に成果につながる取り組みを行い、実現可能な営農計画を策定し、営農の成果や課題を自ら認識できるようになるこ

とが、早期の営農定着につながると推察された。このことから、支援機関では目標設定・営農計画や就農前の研修、農地確保や設備投資といった計画づくりに重点を置くべきであると考えられた。

引用文献

2021. 就農支援マニュアル. 秋田県農林水産部農林政策課. p2~3.
1998. 農業経営改善指導のてびき. 秋田県農政部農政課技術調整室. p231.

表1 対象者の営農類型

営農類型	経営体数
野菜	25
花き	4
果樹	2
畜産	2
きのこ	2
複合経営	10
合計	45

表2 ヒアリング調査を実施した6名の経営概要

	A	B	C	D	E	F
就農時の年齢	30代	30代	30代	30代	40代	40代
就農年度	R1	H29	H30	R1	R1	H29
品目・面積	ネギ1.5ha	水稲13ha アスパラ0.4ha ミニトマト0.2ha 養豚900頭	露地キュウリ20a 直売用野菜2a	カボチャ10a ブロッコリー20a ネギ20a コギク15a 他5a	繁殖牛38頭	水稲15ha リンドウ27a 水稲作業受託3ha
4年目の所得	黒字	黒字	黒字	赤字	赤字	赤字

表3 就農1年目と4年目の所得の関係

単位：経営体数

	4年目の所得				計
	赤字	225万円未満	225万円達成	450万円達成	
1年目の所得					
赤字	14	7	1	-	22
225万円未満	8	10	1	-	19
225万円達成	-	-	-	2	2
450万円達成	-	-	-	2	2
計	22	17	2	4	45

表4 就農4年目の収入額と所得の関係

単位：経営体数

	所得				合計
	赤字	225万円未満	225万円達成	450万円達成	
収入額					
500万円未満	15	9	-	-	24
500~1,000万円未満	5	4	2	-	11
1,000万円以上	2	4	-	4	10
合計	22	17	2	4	45

表5 就農4年目における黒字就農者と赤字就農者の損益の比較

単位：千円

	黒字就農者 n=23①	赤字就農者 n=22②	差①-②
収入額	11,417	4,492	6,926 * z
原材料費	2,519	1,932	587 ns
その他経費	4,573	2,414	2,159 ns
減価償却費	1,671	1,580	91 ns
経費計	8,763	5,926	2,838 ns

Z: t検定により *はp<0.05, nsは有意差なしを示す

表6 就農4年目における収入額別の経営課題*

単位：経営体数

収入額	単収・単価低迷	規模縮小	マインドの低下	親の経営にシフト
500万円未満	18	11	6	9
500~1,000万円未満	6	4	0	5
1,000万円以上	3	0	0	2
合計	27	15	6	16

※経営課題

「単収・単価の低迷」：計画に対し8割以下となっている者

「マインドの低下」：営農への意欲が低下してきている者

「親の経営にシフト」：親の経営の手伝い等により自身の経営がおろそかになっている者

表7 ヒアリング調査の内容と取り組みの比較

単位：%

段階	内容	確認事項(抜粋)	プラス要因		マイナス要因		合計
			黒字就農者	赤字就農者	黒字就農者	赤字就農者	
計画	事前準備	・ビジョンや具体的な計画 ・関係者との信頼関係	18.3	8.8	1.6	3.3	32.0
	営農計画	・経営者としての自覚 ・計画の明瞭性、実行可能	9.5	5.3	1.1	4.5	20.4
	農地取得 設備投資	・栽培に適した条件 ・必要最低限の設備	8.1	3.1	0.9	1.4	13.6
実行	営農状況	・適期作業 ・作業の記録と活用	16.3	4.6	2.8	1.8	25.5
評価	収入確保 (単収・単価)	・適切な栽培管理 ・災害回避	2.2	1.8	0.8	1.1	5.8
	支出の適正化	・生産資材の投入量 ・支払利息、支払地代	1.5	0.1	0.8	0.3	2.7
	合計		55.9	23.7	8.1	12.2	100

注) 黒字と赤字を比較し、比率が大きい項目を太字で表している